

## 他事例の視察結果のとりまとめ

### 1. 視察の概要

#### 1) 目的

岐阜市内で初めて整備された今年度開校の岐阜市立藍川北学園を視察することで、義務教育学校の施設整備に関する特徴について把握するとともに、市の職員だけでなく検討委員会の委員にも視察に参加していただくことで義務教育学校のメリットやデメリットについてより多くの視点から議論することを可能にするために実施しました。

#### 2) 参加者

各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会の委員に加え、本市からも数名参加しました。

- ・各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会 8名
- ・各務原市（市長・教育長・教育委員会事務局職員 6名）

#### 3) 視察行程

当日は以下のスケジュールで視察を実施しました。

表 視察行程

日時	10月6日 10時～12時
時間	内容
10時00分～10時10分	開会の挨拶
10時10分～10時30分	岐阜市藍川北学園の概要説明（校長先生より）
10時30分～11時20分	岐阜市藍川北学園の8年生による学校案内
11時20分～11時40分	岐阜市藍川北学園の具体的な活動内容に関する説明（校長先生より）
11時40分～11時50分	質疑応答
11時50分～12時00分	閉会の挨拶（各務原市教育委員会教育長より）

## 2. 岐阜市立藍川北学園の概要

岐阜市立藍川北学園は旧藍川北中学校の校舎や体育館を改修して整備された岐阜市で初めての義務教育学校です。令和7年4月1日に開校し、現在は1年生～9年生の計224名が通学しております。

表 施設概要

学校名	岐阜市立藍川北学園
所在	〒501-3107 岐阜県岐阜市加野2丁目23番地1号
校舎	鉄筋コンクリート造4階建て
アクセス	【自動車】JR 岐阜駅より約30分 【電車】「加野団地線 三輪駅前行」バス停「加野県営住宅前」下車 徒歩約5分

表 児童生徒数(令和7年5月1日現在)

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
19人	17人	15人	28人	22人	26人	21人	38人	30人	216人 (8人)

※( )…特別支援学級

出典:岐阜県教育委員会 HP



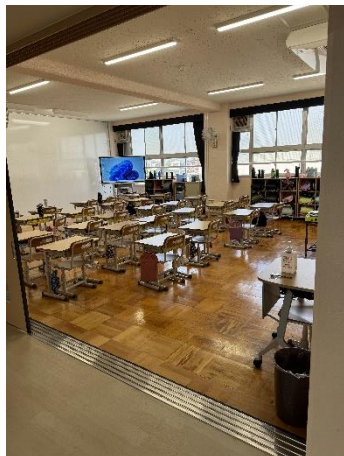
図 校舎案内

出典:岐阜市立藍川北学園 HP

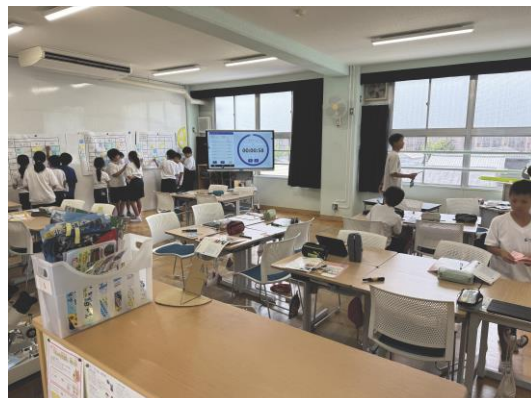
## 藍川北学園の様子



【廊下から見た学校】



【教室の様子①】  
(1～4年生)



【教室の様子②】  
(5・6年生)



【教室の様子③】  
(7～9年生)



【探求の部屋①】  
(フリースペース)



【探求の部屋②】  
(フリースペース)



【地域交流スペース】

### 3. 視察結果

---

今回視察に同行された検討委員会の委員の方々に視察に関するアンケートの回答を依頼しました。全体的に義務教育学校であることで異学年交流が積極的に行われていることや子どもたちが生き生きと楽しんでいる様子が今回の視察を通じて理解したという意見がみられました。また、教育環境についてもオープンな環境や教室の机やイスが学年ごとに異なり、柔軟な利用が可能な点について評価している意見が多くみられました。以下に各設問に関する主な意見を整理します。

#### 1) 生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・子ども達が非常に明るく、異学年の交流が非常に良くできていることが理解できた。
- ・子どもたちがここでの生活をとても楽しんでいることが伝わってきた。
- ・異学年交流の方法について、生徒（児童）の意見（掃除ボランティアなど）が取り入れられており、主体性が育成されている印象を持った。
- ・後期（7年生～9年生）の生徒の責任感の高さや教員と生徒の距離の近さなど学校の雰囲気がとてもよいと感じた。

#### 2) 授業の様子（授業の教科・学年、指導の工夫など）

- ・どの教室も一斉授業はなく、主体的・対話的な学びが1年生の段階からできているように感じた。
- ・子どもたちのスタイルに合わせ、自分で判断して学び方を選択できることが印象的であった。
- ・子どもが主体的に学べるようなグループづくりや授業進行の様子が見られたのはとても良いと感じた。
- ・授業らしくない授業で、自分たちの世代の授業と比べて時代の流れを感じた。

#### 3) 教育環境（施設・設備）

- ・職員室も含めオープンな環境が重要だと感じた。
- ・オープンな教室環境であるのみならず、教室の配置が機能的であることを感じた。
- ・ランチルームがあることや教室の壁一面がホワイトボードになっていること、フリースペースが多いことなどを通して色々な学びのスタイルに対応できるようになっていたことがとても良かった。

#### 4) 総括（所感など）

- ・（授業の一環で）上の学年の児童生徒が下の学年の児童生徒を教える時間等もあり、日本の子どもたちの課題である自己肯定感も自然と身に付き、9年での一貫教育のメリットを感じた。
- ・中学生がこれだけ自分の学校に誇りをもっていることに本当に感心した。
- ・これだけ自由で子どもたちの主体性を重んじ、探究的な学びや異学年交流が当たり前の教育を行っていることに驚いた。
- ・藍川北学園は児童生徒数の面で、本市が定める適正規模の基準の学校との違いがあり、規模の大きい学校について今後研究していきたい。